中央公民館だより

平成 28 年 7 月 1 日発行
三原市中央公民館
三原市円一町２丁目３番１号
TEL 0848-64-2137　FAX 64-0137

未来へ届ける平和への願い

戦後・被爆 70 年という節目の年を迎えた昨夏，中央公民館では，350 名の参加者による『「70 年目の夏」未来へのメッセージ』と題する平和のイベントを開催しました。

昨年に続いてこの夏も，次の要領にてイベントを予定しております。世代を越えて集い，音楽やアートを通じて平和や命の尊さについて考えるきっかけとします。予約なしでどなたでもご自由に参加できますので，たくさんの皆様のご来場をお待ちしております。

【未来へ届けよう平和の歌声】

―折鶴アートに参加しよう・“折鶴”を歌おう―

★折鶴を歌おう

電子ピアノのすてきな音に合わせて，あなたも口ずさんでみませんか？平和の歌を!!

と き　８月７日（日）14 時～16 時

ところ　中央公民館大講堂

内容　14 時～14 時 40 分　平和の絵本の朗読（音にのせて）

14 時 50 分～16 時　平和の歌声“折鶴”を歌おう（参加者・各団体による共演）

対象　どなたでも　　**入場料**　無料

【関連行事】

★折鶴アートづくり

各コミセンで分割制作した折鶴による絵を中央公民館で巨大壁画に仕上げ，展示

（広島市より譲り受けた“原爆の子の像”の折鶴を併せて活用）

と き　６月 20 日(月)～８月１日(月)

ところ　中央公民館，糸崎・中之町・宮浦・沼田東・須波・幸崎・鷺浦の各コミセン

※参加される方は，直接各施設に連絡をしてご来場ください。

対象　どなたでも　　**参加費**　無料　　**展示**　８月７日「折鶴を歌おう」当日

★同時企画展

と き　７月５日(火)～８月７日(日)

ところ　中央公民館ロビー

内容　**展示Ⅰ　『シベリア回想絵画展』**

（古谷　巌　さんの戦争体験に基づく絵画作品展示）

展示Ⅱ　『遺品が語る戦争の記憶』

（戦地からの手紙による平木　ヨシヱ　さんの記憶）

全体に関わる問い合わせ

生涯学習課（中央公民館）　☎０８４８・６４・２１３７

7・8月の体験講座

講座名	開催日時	対象	参加費	持参物	定員	申込期間
★旅の達人★がご案内 『のんびり気ままな 旅の楽しみ方』	7月9日(土) 14:00～16:00	大人	100円	筆記用具，日本地図 （お持ちの方）	50名	6月1日 ~7月5日
「レッツ・トライ!スペイン料理」 炊飯器 de パエリア	8月23日(火) 10:00～13:00	大人	1,400円	米1合，エプロン，三角巾，手拭タオル，ふきん	24名	8月1日 ～8月16日

炎の魔術師 陶芸作家の執念

“自由人・夢中人・地域人“活動拝見⑥

決してねらってできるものではない陶器独特の仕上がり…“必然の偶然”とも言うべき『窯変』。その窯変の一技法“焼締め”とシャープな切り口で作品を引き立たせる糸きりと共に裂文様を得意とし，「水」をテーマとした作品を造形。17年間市内の人里離れた山あいにアトリエを構え，あまたの国内外の賞を獲得，年間，アトリエ展と2回の個展（東京など）で精力的に作陶の意味を発信し続ける陶芸作家がおられます。稲留清彩（本名清美）さん。

―本郷町上北方のアトリエ“清彩苑”に訪ねました。

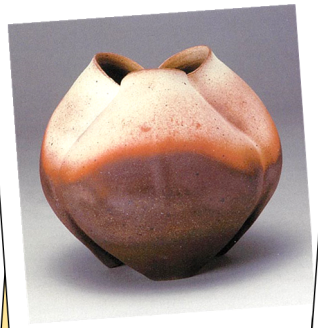
1　陶芸への道　転機は二度訪れる。広島市青少年文化センターの嘱託職員として働いていた20代後半，陶芸教室の講師が不在となり，見よう見まねの独学で青少年に手ほどきをしたのが最初のきっかけ。二度目は，漫然と作陶を続けてきた自身の身の処し方を考えていた40代後半，ある支援者から「あなたはまだ自分の作品を世に問うてない。」と言われ，二人の子を育てながら，一念発起してプロを志したとのこと。48歳のプロは，この道ではかなりの遅咲きだそうです。

2　陶芸の魅力　大きく二つ。自然の素材が炎の助けを借り，形を変えつつもやがては土に還っていくという“転生”のあり方が自身の心情にそぐうとか。また，己が指で自在に形を変えてくれる反面，究めようとしても究めきれない難しさがあるのも事実―。興が乗ると作陶は深夜に及び，20時間継続することもあるようです。「自信作は？」との問いに，「一つもありません。」

3　陶芸に寄せる思い　「有名な作家に師事したわけでもなく，ずぶの素人の自分が成し得たことを作品を通してより多くの人に知っていただき，夢を抱いて行動することの大切さを，個展や陶芸教室を通じて今後も訴え続けたい。」と，優しく微笑みながらも芯のある言葉で語っておられました。

アトリエ外観

5～6月のアトリエ展風景


焼締めにより制作された作品

デッキでの作品解説

編集後記

「さがしています」という，詩人アーサー・ビナード氏の絵本をご存知ですか？この絵本の中に登場するのは，被爆遺品です。擬人化されたものたちが，それぞれの気持ちで語りかけてきます。物の側から人へ伝えたかった言葉や思いを訴えてきます。先日のオバマ大統領のスピーチの中に「71年前，雲一つない明るい朝，空から死が落ちてきて世界が変わりました」とありました。確かに青空の下には慎ましやかな日常の暮しと，人々の希望と未来があったはずです。絵本では，その日に食べて貰うはずだったお弁当や，鍵や制服が私たちに語りかけてきます。8月7日の「未来へ届けよう平和の歌声」イベントの中で，朗読ボランティアの方々によって朗読されます。是非ご参加頂き，一緒に平和や命の尊さを考えませんか？

※アーサー・ビナード氏＝米国ミシガン州生まれ，来日後日本語を学び，日本語での詩作をはじめ，翻訳，翻訳絵本，エッセイ，ラジオパーソナリティー等で活躍中。広島在住。今回オバマ大統領の広島訪問の際，同時通訳をされました。

お問い合わせ・ご相談は，三原市中央公民館(TEL0848-64-2137　FAX64-0137）生涯学習相談員　中山・村上まで